

登録コード:MH128200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	小児発達看護学概論【20MJ以降】 Introduction to Child Health Nursing		
担当教員	佐藤 奈保 川田 悠介・中山 佳子・平林 優子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/2年生 後期(前半) 火曜・3時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科 3 1 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	児童の子どもの権利にもどつき、子どもを一人の発達主体として尊重すること、小児看護の背景、特徴や保健医療の動向、政策を理解すること。
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	小児の病気の認識や自己決定支援について理解すること。小児の症状発現や救急対応について理解できること。
	MH25カリ・保健・看護、MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	小児の一般的な健康問題である症状アセスメントを支援技術を修得し、子どもが自らの健康維持・増進・疾病予防、医療への参加を主体的に行うための支援について理解すること。 小児に関連する社会的背景と保健医療福祉の動向や政策について理解し、小児が健全に育ち健康問題に対応するための知識・技術・小児の全人的な支援のための倫理的視点について理解すること。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、小児看護の実践のための基本的な知識・技術を獲得するものです。少子高齢社会において、小児が健全に育ち、健康問題に対応できるための知識・技術、小児の全人的な支援のための倫理的視点を学びます。そのために、小児を取り巻く医療保健の動向、制度、小児の疾病予防に関する重要な制度と背景、一般的な子どもの健康問題である症状アセスメントと支援技術について学習します。また、子どもが自らの健康維持・増進、疾病予防、医療への参加を主体に行うために、子どもの身体や病気の理解、自己決定支援について学習します。 本授業は、2年前期の「小児発達健康論」の知識を専門領域の基礎としますが、1年次の「基礎看護学概論」、「コミュニケーション方法論ⅠⅡ」、「看護方法論Ⅰ（生活援助）」の知識についても小児を対象した学修の中で用います。本授業は3年次の「小児発達看護方法論」、「小児発達看護実習」の基盤となる知識・技術です。 本授業は、担当教員の医療機関等での実務経験を活かして講義を行います。本授業は男女共同参画に関連する内容が含まれます。		
授業計画	看護学専攻/2年 ①第 1回（9月29日） 小児の看護の特徴・権利擁護 （佐藤） ②第 2回（10月 6日） 小児の保健・医療・福祉・政策 （佐藤） ③第 3回（10月13日） 子どもの病気の理解・ストレス対処・自己決定支援（佐藤） ④第 4回（10月20日） 子どもの主体性を促す支援 （ゲスト講師・佐藤） ⑤第 5回（10月27日） 症状を示す子どもの看護① （川田） ⑥第 6回（11月10日） 症状を示す子どもの看護② （川田） ⑦第 7回（11月17日） 小児の看護支援の場と役割・授業アンケート （佐藤） ⑧第 8回（11月24日） 筆記試験		
授業の進め方	本授業は教科書、スライド、配布資料等に基づいて進めます。能動学習による理解の発展を目指すため、事前学習課題の提示、授業内での質疑応答、授業へのリアクションペーパーへの自己の考えの表明などを行います。また、演習では各自の事前学習に基づいて、モデル人形を用いた実践を行います。		
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 小児看護学①総論・概論 医学書院 最新版		
成績評価の方法	筆記試験100点、授業ごとの課題へのリアクションペーパー提出により総括的に評価します。筆記試験を90%、リアクションペーパー10%に換算して、合計100点とし、総合点60点以上を合格とします。		
成績評価の基準	総合点については、60－69点 可 70－79点良 80－89点優 90－100点秀とします。 筆記試験は、授業で示した内容と同レベルの問題が解ければ、「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、難しい応用問題が解ければ、「卓越している」とします。 リアクションペーパーについては、求められた課題について、非常に優れている：5点、やや優れている：4点、課題には合致している：3点、到達内容としてやや不足：2点、十分検討されていない：1点として評価します。		
事前事後学習の内容	事前・事後学習：授業中あるいは授業の終わりに、今回の授業について自己学習しておく		

事前事後学習の内容	内容および次回までに学習すべき内容を説明します。次回の始めに前回の授業の要点について質問をすることがありますので準備して授業に臨んでください。演習に関しては事前学習・準備が必要です。 本授業の単位修得には、45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間（2時間×7.5回）＋自己学習時間30時間（4時間×7.5回）＝45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	小児看護の基礎となる授業です。3年次の小児発達看護方法論で学ぶ、疾病を持つ子どもへの具体的な支援の理解や実習科目にもつながります。子どもとその家族に対する看護の基本をしっかり学んで下さい。 質問への対応：メールで連絡してください。 佐藤奈保 研究室（中校舎4階）：e-mail：naho_sato@shinshu-u.ac.jp 川田悠介 研究室（中校舎3階）：e-mail：yskawada@shinshu-u.ac.jp